

石蔵・石塀・公園がつながる賑わいの景観

■立地環境を活かした活用

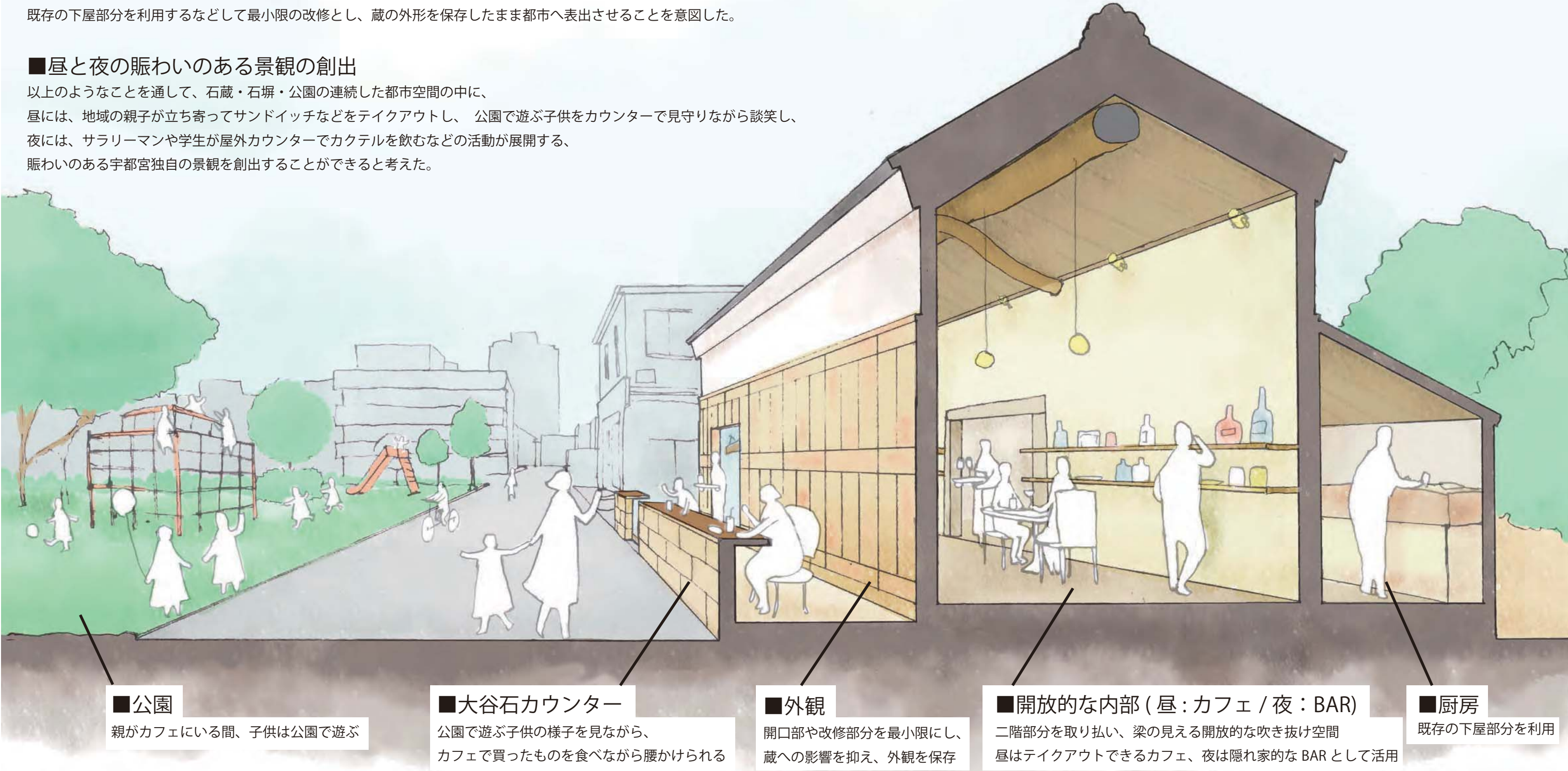
計画対象の大谷石蔵は、駅から近い場所に立地しており、道路を挟んで公園に面している。
そこで、この立地条件を活かして、昼は公園で遊ぶ親子が利用できるカフェ、夜は帰宅途中に立ち寄れる BAR として活用することを提案する。

■石蔵・石塀・公園が連続した都市空間

現在のこの大谷石蔵は、道路との境界部分に大谷石塀と樹木があり、公園や道路と隔てられている状況にある。
そこで、既存の大谷石塀の高さを低くして屋外カウンターとして利用することで、蔵の表出性を高めると共に、蔵と公園との活動をつなぐものとした。
さらに、この蔵は宇都宮市で多く見られる大谷石でできた建物の中でも、木造の蔵の一部に大谷石を張った市内にも数の少ない張石構法で造られており、石の文化・歴史から見て大変貴重な建物である。そのため、正面の入り口以外は新たな開口部を作らず、既存の下屋部分を利用するなどして最小限の改修とし、蔵の外形を保存したまま都市へ表出させることを意図した。

■昼と夜の賑わいのある景観の創出

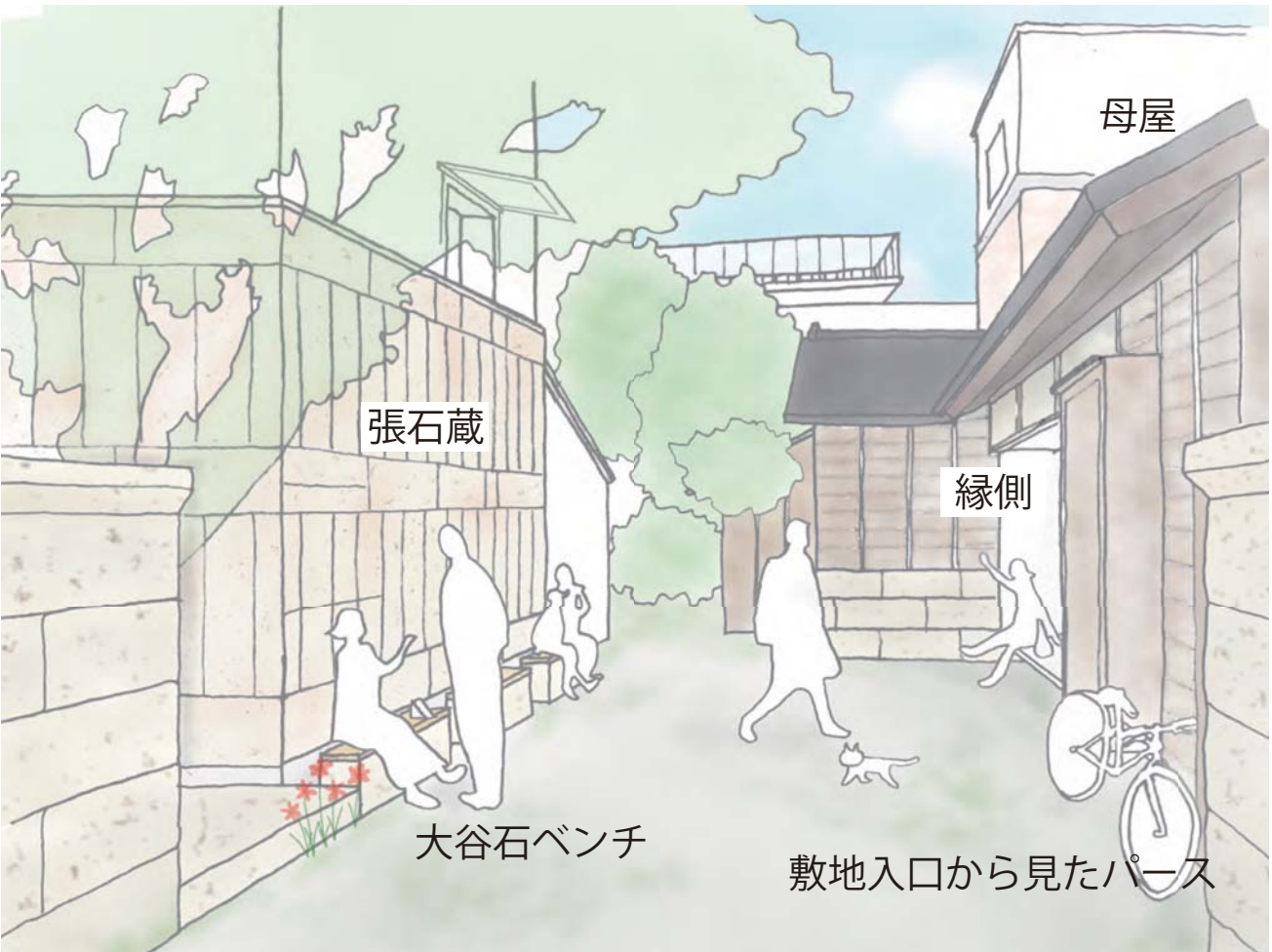
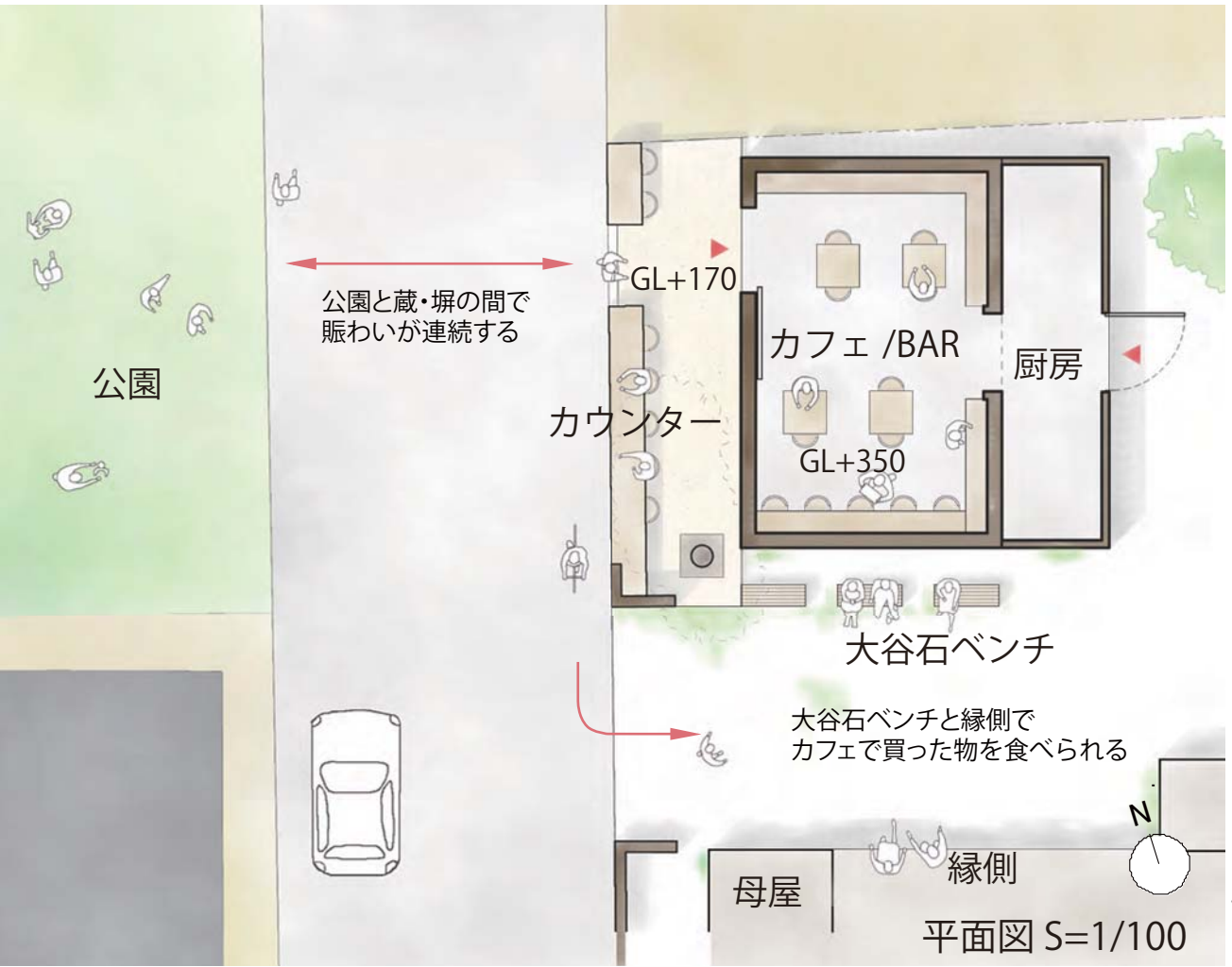
以上のようなことを通して、石蔵・石塀・公園の連続した都市空間の中に、
昼には、地域の親子が立ち寄ってサンドイッチなどをテイクアウトし、公園で遊ぶ子供をカウンターで見守りながら談笑し、
夜には、サラリーマンや学生が屋外カウンターでカクテルを飲むなどの活動が展開する、
賑わいのある宇都宮独自の景観を創出することができると考えた。



断面パース



西側立面図 S=1/100



石蔵と洋館のマリアージュ

①大谷石蔵と洋館付き住宅が 織りなす宇都宮の景観

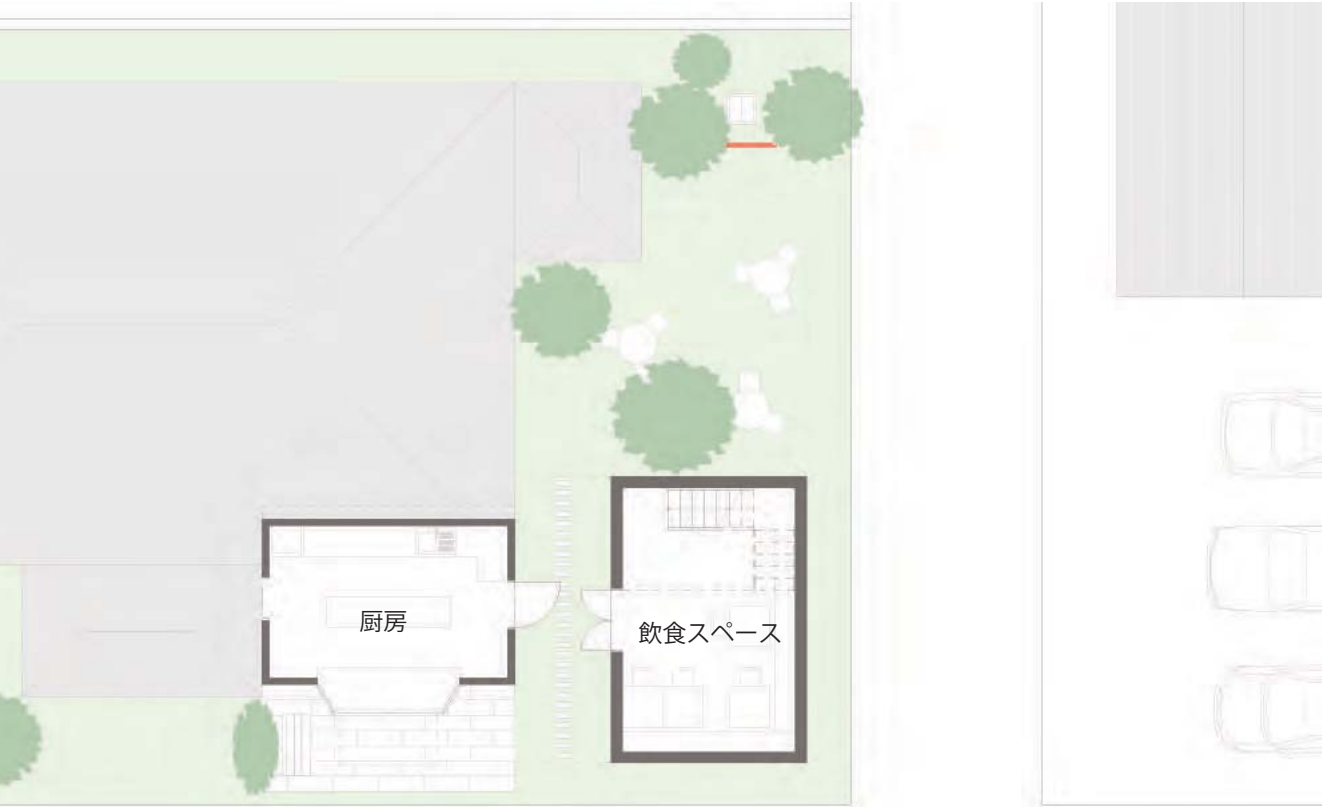
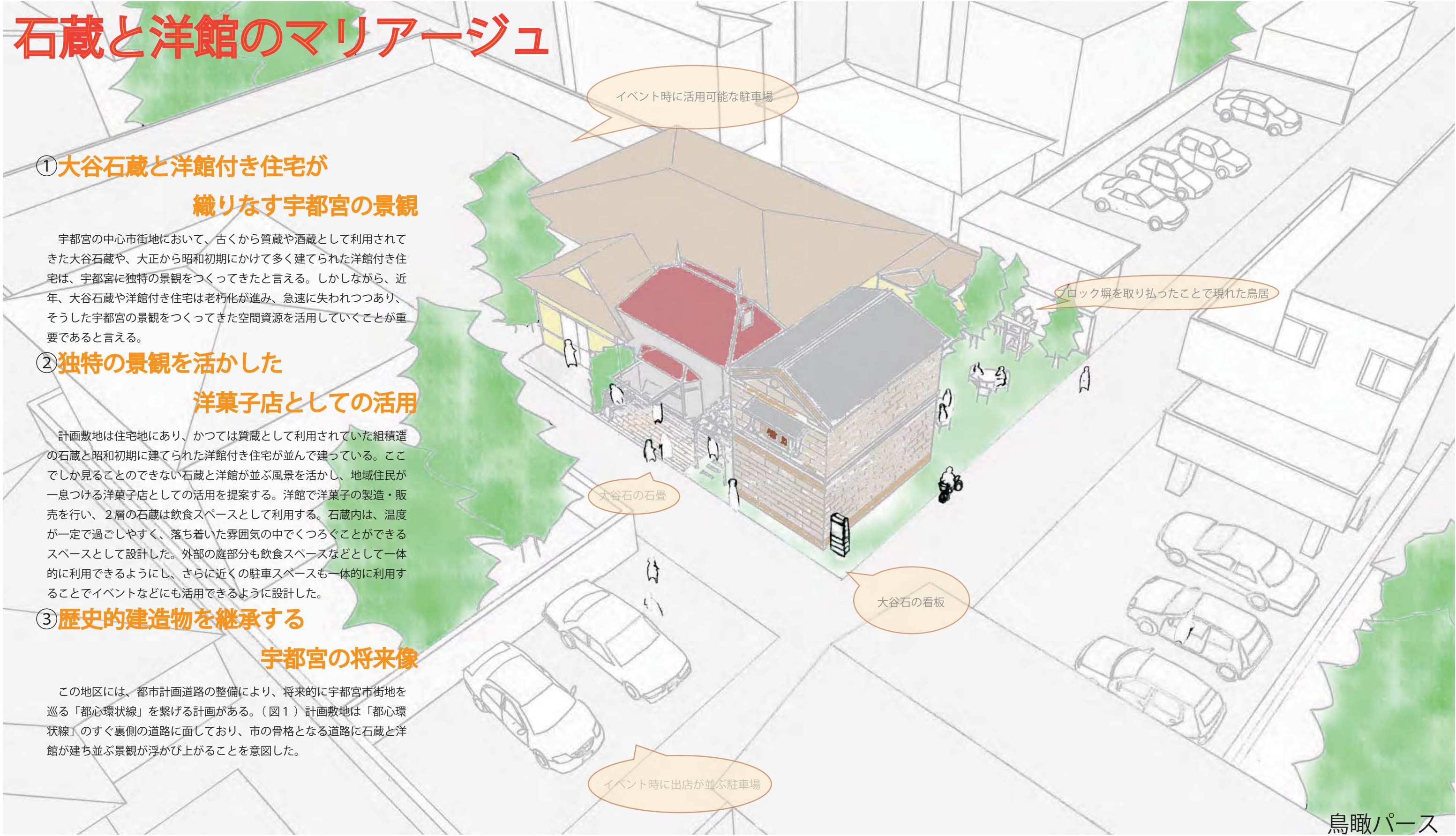
宇都宮の中心市街地において、古くから質蔵や酒蔵として利用されてきた大谷石蔵や、大正から昭和初期にかけて多く建てられた洋館付き住宅は、宇都宮に独特の景観をつくってきたと言える。しかしながら、近年、大谷石蔵や洋館付き住宅は老朽化が進み、急速に失われつつあり、そうした宇都宮の景観をつくってきた空間資源を活用していくことが重要であると言える。

②独特の景観を活かした 洋菓子店としての活用

計画敷地は住宅地にあり、かつては質蔵として利用されていた組積造の石蔵と昭和初期に建てられた洋館付き住宅が並んで建っている。ここでしか見ることのできない石蔵と洋館が並ぶ風景を活かし、地域住民が一息つける洋菓子店としての活用を提案する。洋館で洋菓子の製造・販売を行い、2層の石蔵は飲食スペースとして利用する。石蔵内は、温度が一定で過ごしやすく、落ち着いた雰囲気の中でくつろぐことができるスペースとして設計した。外部の庭部分も飲食スペースなどとして一体的に利用できるようにし、さらに近くの駐車スペースも一体的に利用することでイベントなどにも活用できるように設計した。

③歴史的建造物を継承する 宇都宮の将来像

この地区には、都市計画道路の整備により、将来的に宇都宮市街地を巡る「都心環状線」を繋げる計画がある。（図1）計画敷地は「都心環状線」のすぐ裏側の道路に面しており、市の骨格となる道路に石蔵と洋館が建ち並ぶ景観が浮かび上がることを意図した。



配置図兼 1 階平面図 1/150

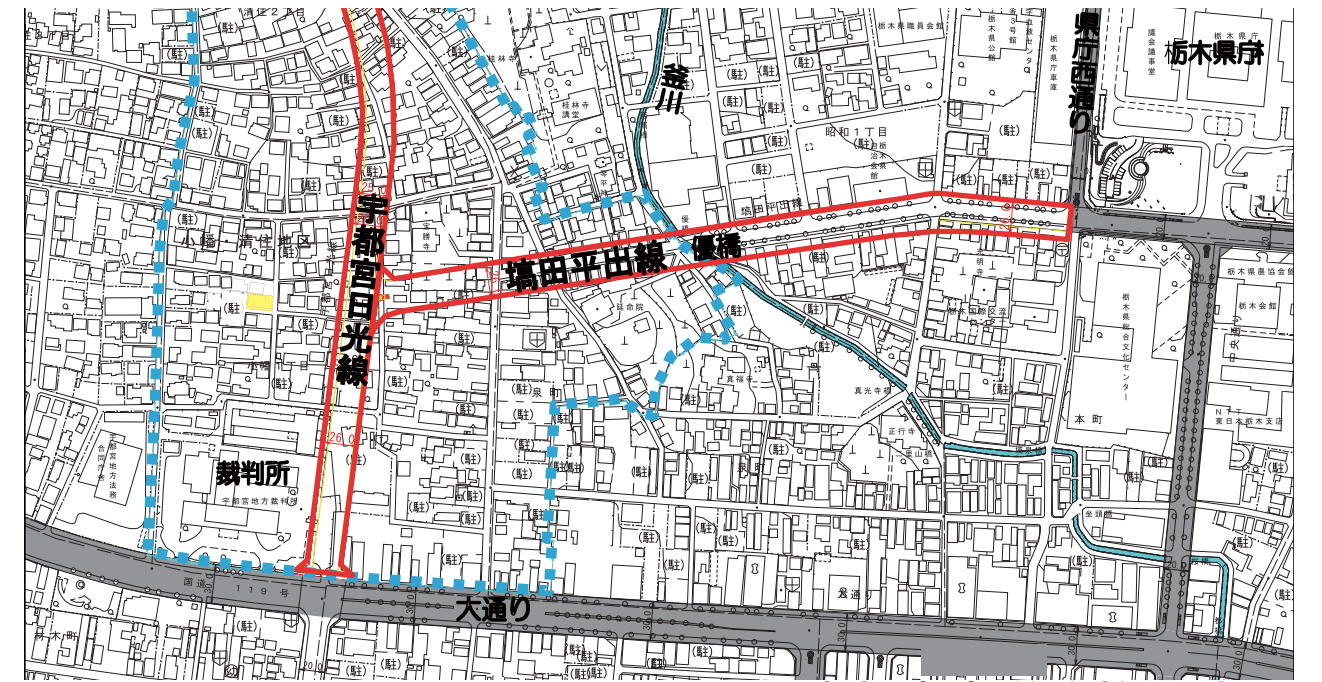


図1：宇都宮市道路整備計画

